

英語科

新指導要領による高校英語指導の問題点

— 中高のつながりを中心に —

(継続研究：2年度目)

加藤 剛 高橋 恵亮 倉田 有邦
小幡 正躬 宮田 学

I. 研究のねらい

指導要領が改訂になり、新しい教育課程が実施に移された段階で、次のことをねらいとして、昨年度この研究がスタートした。

1. 新指導要領によって中学から高校へ移行した事項を具体的かつ詳細に調査研究し、その移行分の効果的指導を工夫する。
2. 新しく登場した「言語活動」の正しいあり方を求め、それを実践に移す。
3. 特に聞く・話すの領域と関連して、有効な視聴覚教材の収集と開発をめざす。
4. 加えて、従来から指摘されている英語学習の中・高の間のギャップをとりのぞいて、中・高のつながりをスムーズにするような配慮・工夫をする。

II 昨年度の研究経過

1. 調査

ア. 指導要領の調査検討

今回の改訂が中・高にわたる大幅なものであったので、旧中学指導要領と新中学指導要領の比較、旧高校指導要領と新高校指導要領の比較を入念に行なった。

語数の減少、高校における文型と文法事項の新たな指定、言語活動の重視、中学から（特に旧中3から）高校への大幅な移行……等々の問題点が明らかになった。

イ. 教科書の調査検討

中・高のつながりという視点から、中学より高校へ移行された事項が新高1用の教科書にどう出てくるのかを実際に見てみることにした。現行の第1学年用教科書（読本B）7種類について、移行分の必修文型・文法事項を約21項目に分類して、それらの取り扱い方を調査してみた。

その結果、教科書による差が大きいものの、例えば、いきなり描出話法がでてきたり、初出の非制限的用法の関係代名詞 which が前文を受ける

ものなど、導入上の順序や配列についての配慮に欠けるものが多いことが明らかになった。

ウ. 生徒の意識調査

本校および他校の1年生を対象に、高校英語に接してどう感じているか、どんな点でむずかしさを感じているか、どんな点でむずかしさを感じているかということアンケート調査してみた。

その結果、予想通り、中学の時よりも英語が急にむずかしくなったと感じているものが全体の約80%いた。「新語のふえ方」、「予習の必要性」が困難さの要因の1,2位を占めたのはわかるとしても、「授業の進度の早さ」、「時間ごとの学習重点の不明確さ」が3,4位を占めたことに大いに反省すべき材料を見出した。また、「訳読への傾斜」に対する批判も多く、聞く話すの練習に対する要望もかなり感じとられた。

2. 主な課題と実践方向の設定

中学とのギャップをうめて新高校1年生がスムーズに高校英語を学習できるようにする配慮の必要性を痛感したが、これを、新指導要領の特色とからみあわせながら、次のような課題を設定し実践した。

ア. 移行分についての補助教材の作成

新しく高校に移行したもののうち、特にていねいな導入を必要とすると思われるもの——過去完了・仮定法・関係詞・話法・分詞構文——を選び、旧中学教科書5種類を参考にしながら、独自の導入用基本文例集を作成した。（昨年度は、このうち、過去完了・仮定法・関係詞について編集）

イ. 言語活動の重視

「言語活動」をどのように方向づけていくのかという難題については、一応、言語の持つ人間的・創造的側面に着目して、ことばの運用力を総合的につけさせるような活動と規定し、従来の実践を踏み台にして様々な工夫を試みた。

その中で、新高1に対しては、「自由英作文スピーチを実施した。（詳細は、本校紀要第19集「新指導要領と英語学習：Ⅱ. 言動活動をめざし

て」参照)

ウ. 授業全般の改善

生徒の意識調査の結果、教師の姿勢や指導法に改善の余地のあることがわかったので、必修文型・文法事項の熟知はもちろんのこと、導入用文例プリントの使用、聞き話す作業の一そうの重視など、できることから着手した。「文法」の取り扱い方や視聴覚教材の活用など、次年度への課題として残された。

Ⅲ. 本年度の実践

1. ねらい

- ① 中学より移行した事項の指導の効率化
- ② 言語活動の正しいあり方とその指導法に焦点を合わせながら、
- ③ 新高校1年生に系統的指導を試みて、中・高のつながりをスムーズにすることにねらいを置き、次のような実践を続けている。

2. 実践例

ア. 高校英語への手引き書作成

新入生が高校英語について正しい認識と学習態度を持てるようにという目的で、6ページの小冊子“An Invitation to Senior High School English”を作成した。

高校へ入学にするにあたっての心がまえ、学習の目的、夏休み中の学習、高校英語の実際、予復習の要領、図書館の利用などの項目についてまとめたものである。

イ. 「文法」の取り扱い方の工夫

新指導要領に伴う教科書の改訂の結果、英語Bでは「文法」の教科書が独立し、この取り扱い方については多くの学校において様々な工夫がなされている。本校では昨年度、R(3授業時間；以下同じ)・G(1)・C(1)という時間配分をし、各々別の教師が担当した。

その結果、文法教科書の無味乾燥さに由来する授業の単調さやR・Gとの関連性の薄さを特に強く反省した。

そこで本年度は、R(3)とG(1)を同一教師が担当することとし、さらに、文法教科書と関連した参考書を自習用に持たせた。生徒は、あらかじめ決められた計画に従って参考書と教科書を家庭学習し、週1時間の文法の授業で不明な点を質問したり教科書 Exercise の答え合わせをするようにした。また、文法の教科書はR・Cの授業に持参させ、適宜参照するようにしている。

1学期は、基本文型と各品詞論の箇所であったため、R・Cとの関連を十分に持たせることがで

きなかったが、2学期以降は、文法教科書の順序入れ替えてRの学習内容に合わせている。(具体例：エ. 移行分補助教材の完成の項参照)

参考書による家庭学習の導入によって、文法の授業時間のうち全体の約 $\frac{1}{3}$ ～ $\frac{1}{2}$ ほど余ってくるので、その時間を言語視聴覚教室において次に述べるようなことに活用している。

ウ. 「文法」の授業時間の活用

(ア) 英語の歌

英語学習に対する1つの動機づけとして、また授業を楽しくするという目的で、2授業時間で英語の歌を1曲を覚えるようにしている。

4月以降の曲目を参考までにあげておくと、
Where Have All The Flowers Gone,
The Cruel War, We Shall Overcome, 500 Miles,
Gone The Rainbow, Michael, Yesterday,
Donna Donna である。

(イ) 聞きとりの練習

市販のテープから高1程度にわかる簡単なものを選び、2～3分でできる聞きとり練習をしている。音の聞きわけ、文の聞きわけ、話の内容の聞きとりなど、内容は様々である。

(ウ) OHP利用の総合応用練習

OHPはいろいろな場面で使用しているが、これは、物語の内容に関する絵をTPにしてOHPで投影しながら英文を聞かせ、その後で内容についての英問英答・適語挿入・文章完成などをやらせて口頭の応用練習をさせるものである。

その中でも現在定着していて生徒に好評なものに、「英語紙芝居」と名づけているものがある。その手順を簡単に示す。

- ① 絵(TP)をOHPで投影する。絵は市販のものをコピーしたりすることがあるが、なるべく生徒の中で絵のうまいものに書かせている。
- ② 絵をみせながら、効果音の入ったテープで物語を聞かせる。
- ③ 新しい単語・連語をOHPを使って2回ほど口頭練習をさせる。
- ④ もう一度、絵を見せテープを聞かせる。
- ⑤ 物語の内容について、絵を手がかりにしながら教師一生徒間で英問英答する。

(エ) 「自由英作文スピーチ」の発展的実施

昨年度は生徒1人ずつにやらせたが、本年度は3人のグループ単位としている。文は発表後教師が添削して返していたが、本年度からは、発表の約1週間前に提出させて添削を済ませた

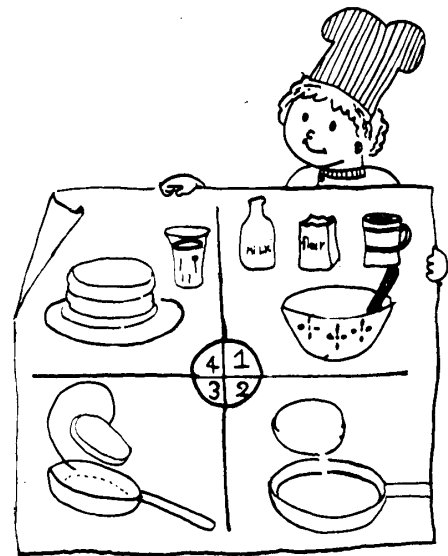
英文でスピーチさせている。

スピーチの内容を絵 (TP) にしてやることは昨年と同様であるが、さらに、新しい単語やむずかしい表現が使われている場合に、それら

をまとめてTPに書かせるようにしている。また、スピーチの後でその内容についての英問英答を生徒同志でやらせている。

ごく最近に行なわれたものをここに紹介する。

〔資料 - 1〕 スピーチに使われた絵



〔資料-2〕 スピーチに使われたTP(新出語句)

difficult words	
pancake	ホットケーキ
wheat flour	小麦粉
knead	練る
sticky	ねばねばする
pour	注ぐ
pancake mix	ホットケーキのもと
frying pan	フライパン
turn inside out	裏がえす
bake	(菓子などを) 焼く
fail	失敗する
Annie	少女の名 アニー

〔資料-3〕 スピーチの英文(添削済のもの)

Today is Annie's tenth birthday. Annie and her mother are in the kitchen, and they are making pancakes for her party. Her mother is very good at making cakes. So her mother is teaching Annie how to make pancakes.

How to make pancakes: (1) Mix wheat flour with milk and sugar, etc. Then knead it till it becomes sticky. (2) Pour pancake mix into the frying pan which is made hot. Do it to a beautiful brown. (3) Turn a pancake inside out, and bake the other side.

M: Annie, it is very difficult to turn inside out.

A: No, it's easy. I'll try now.

....

But..., the pancake has fallen down to the floor.

M: Oh, Annie!

A: Mother, I'm sorry. It's difficult for me.

M: At first anyone fails. Try again some day.

A doorbell rings. Annie runs to the door to meet her friends. On the table there are some pancakes and dishes of food which her mother has made.

Can you make pancakes?

〔資料-4〕 スピーチ後の生徒に対する質問文

1. What are Annie and her mother making?
2. What is her mother teaching Annie?
3. Is it easy or very difficult to turn a pancake inside out?
4. Has the pancake fallen down to the floor?
5. Can you make pancakes?

エ. 移行文補助教材の完成と効果的使用

昨年度着手できなかった「話法」と「分詞構文」についての導入用基本文例集をまず完成した。

中学から移行した事項を無理なく効果的に指導

するためには、補助教材の作成だけでなく授業全般の改善がなされねばならないと考えているが、本年度、例えば「関係詞」の指導について次のような工夫をしてみた。

現在高1が使用している教科書(読本B)では、Lesson2に関係代名詞 what, Lesson 5に非制限的用法の which, Lesson 6に非制限的用法の whoが本文中に初出する。Lesson7では「前置詞+関係代名詞」、関係詞 who・wherever・wheneverが初出するとともに、「For Study」で関係詞が重点的にまとめられている。

そこで、

- ① Lesson 2の what は、間接疑問文を導く whatとも解釈できるので、教科書の注には従わずにおいた。
- ② Lesson 5の which が出てくる直前、すでに完成している関係詞の補助教材の中から非制限的用法の部分だけを取り出し、さらに適切な例を補足して、次に示すような学習用プリントで指導した。

〔資料-5〕 “KEY POINTS” No.1

Relatives (A) Non-Restrictive Use (非制限的用法)

Taro bought a pen, but he lost in the train. —(a)
Taro bought a pen, which he lost in the train. —(b)

- * 1 (a)と(b)は同じ意味だが、(b)の whichは(a)のどの語を働きをしているか。
 - * 2 whichの前のカンマに注意せよ。
- 次の1~8の下線部に注意して、意味を考えよ。

- 1 Hanako met a boy, who asked her the way to the station.
- 2 Taro, who didn't have a pen, wrote with a pencil.
- 3 Mr. Yasunari Kawabata, whose works every Japanese knows, killed himself a few years ago.
- 4 My uncle, whom I haven't seen for many years, is coming next Sunday.
- 5 We went to the village, where we stayed for a week.
- 6 Taro came back home at five, when it began to snow.
- 7 I will lend you this book, which is very interesting.
- 8 “The Merchant of Venice”, which we are going to see tomorrow, was written by

Shakespeare.

- cf. { We want a young lady who can speak English well.
We want the young lady, who can speak English well.
- cf. { In our class there are seven boys who come to school by bicycle.
In our class there are seven boys, who come to school by bicycle.

- ③ Lesson 7 の前で、「前置詞+関係副詞」、「関係副詞の先行詞省略」についてのTPを自作して新出事項を一括指導した。
- ④ Lesson 7 の学習と並行して、文法の授業で関係詞分の補助教材の残りを“Key Points” No.3 として配布し、③の事項を再学習するとともに、関係代名詞 what を加えて学習させた。
- ⑤ Lesson 7 の wherever, whenever が出た後の文法の授業で、文法教科書・参考書の関係詞分を取り上げ、最後のまとめとした。

オ. 日常英会話の導入

リーダーの授業の冒頭3～5分位を使い、毎回1名の生徒に教師がいろいろな日常的な話題を拾って発問し、会話形式の練習を取り入れている。他の生徒たちも会話に集中できるように、その会話の内容について他の数名の生徒と英問英答するようにしている。

最近のものから1つ紹介しておく。

Teacher: How are you, this morning?
Student(1): I'm fine, thank you. And you?
T: Very well, thank you. Well, we had a national holiday last Monday, didn't we?
S(1): Yes, we did.
T: Do you know what we call it?
S(1):
T: In Japanese, please.
S(1): 秋分の日
T: That's right. We call it "Autumnal Equinox Day" in English. Everyone, repeat; Autumnal Equinox Day.
Class: Autumnal Equinox Day.
T: Fine. Now, S(1), did you go anywhere on Autumnal Equinox Day?
S(1): Yes, I did.
T: Where did you go?
S(1): I went fishing to the Yahagi.

T: Oh, did you? Who went with you?
S(1): My father and my uncle.
T: Did you catch many fish?
S(1): No. But we got about ten.
T: Good. Thank you. Mr. S(2), did Mr. S(1) go anywhere on Autumnal Equinox Day?
S(2): Yes, he did.
T: Where did he go?
S(2): He went to the Yahagi.
T: That's right. Miss S(3), with whom did he go to the Yahagi?
S(3): His father and
T: Miss S(4).
S(4): His father and uncle went to the Yahagi with him.
T: O.K. Then, how many fish did they get Mr. S(5)?
S(5): About ten.
T: Yes.

3. 実践の結果

本年度の以上のような実践について、新1年生がどのように受けとめているのか、またどのような効果が出ているのかを、次の2つのアンケートで調べてみた。

(A) 昨年度実施したアンケート(Ⅱ. 1-ウ)を同じ時期(6月末)に実施してみた。

[資料-7] 高校英語についての生徒の受け取り方

○ 対象

- (1) 名大附属高校1年生 { 昨年度 141名(a)
本年度 134名(a')
- (2) 名古屋市内一公立中学 { 昨年度 92名(b)
学出身普通科1年生 { 本年度 65名(b')

○ 結果 数字はすべてパーセント(%)

1. 高校になってから、英語が急にむずかしくなったと思いますか。

項目	対象			
	a'	a	b	b'
ア 非常に	21	26	28	14
イ 少し	54	61	21	80
ウ 変りない	22	12	11	6
エ むしろやさしくなった	3	1	0	0

使用教科書・構成生徒・新指導要領による中学校教育年数などの違いをアンケートの結果にどう読みこむのが不明であるが、「1-ア 非常にむずかしくなった」と答えた者が他校の28%から14%へと半減しているのに対して、本校生徒が21%から26%へと増加しているのは、大

いに反省すべきである。

こうした結果を生んだ要因には、文法の参考書を自習させたため(アンケート(B)参照)、さらには、「2-イ、新出単語がふえた」(71%→87%)にみられるように、アンケート実施時に学習中のリーダ教科書において、Lesson 5での未習単語・連語が1行につき約1.13語という高率とな

ったため(前課は約0.36語)の2つが考えられる。

「2-ウ、オ、カ」などに本年度ねらったことの効果が感じとられるが、かえて「2-エ、キ」のように逆効果をもたらしてしまったことを反省しなくてはなるまい。これも、文法の参考書を家庭学習させていることに原因しているようである。

2. どんなことがむずかしくなったと感じますか。

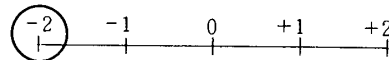
項目	対象	a'	a	b	b'
ア. 文章が長くなった		38	28	21	40
イ. 新出単語がふえた		71	87	50	40
ウ. 時間ごとの学習要点がわかりにくい		34	15	49	29
エ. 教科書がR, C, Gに分かれている。		25	36	9	28
オ. 授業の進み方が早い		41	28	44	55
カ. 聞き話す作業がへって、訳読作業が多くなった		30	16	29	20
キ. 文法用語が多く出るようになった		19	40	28	35
ク. 英文を書く作業が多くなった		16	16	21	15
ケ. テストの内容や分量が大きくなった		10	11	21	25
コ. 予習していかなければならなくなった		46	50	75	62
サ. 辞書がうまく使えない		6	4	2	0

(B) 本年度の新しい実践について生徒たちの印象を-2~+2の尺度で調べてみた(9月末)

[資料-8] 新しい実践についての生徒の受けとり方

英語の授業(宮田担当のRとG)で行なっていることの中で、これからも続けた方がよいかどうか、次の要領に従ってありのままを答えて下さい。

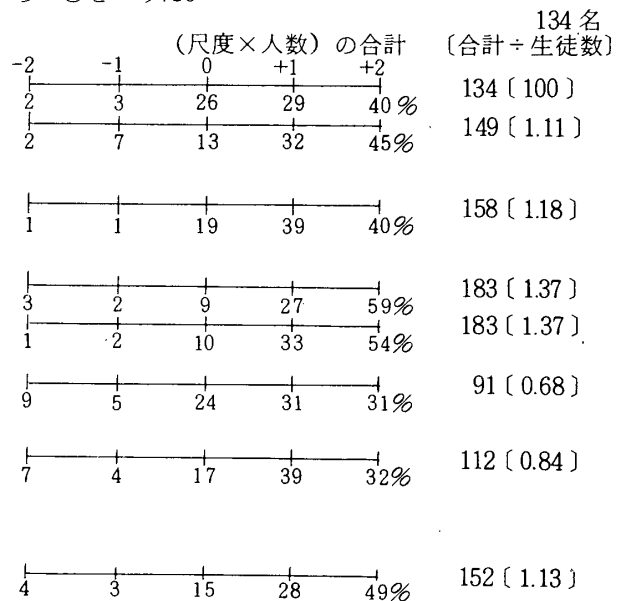
[例] 宮田先生が授業すること



[解説] 宮田先生の授業は続けない方がよいと強く思うので-2のところに○をつけた。

(1) Readers の授業で

- a. 冒頭に行なっている日常英会話
- b. テープを使うこと
- c. 本を読む前に、先生が物語の内容について簡単な英語で紹介すること
- d. 日本語に訳すこと
- e. 応用英作文をすること
- f. 読むのを個人にあてること
- g. 内容について英語で問答すること
- h. "Key Points" (学習用参考プリント) を使うこと



(2) Grammar の授業で

i. 3人グループによるスピーチ (OHPを使って絵を見せること も含む)	-2 9	-1 8	0 21	+1 29	+2 33%	92 [0.69]
j. 英語の歌	6	1	10	24	60%	175 [1.31]
k. 聞きとりの練習 (テスト型式の もの)	5	4	19	31	41%	131 [0.98]
l. OHPとテープを使った英語紙 芝居	3	7	18	28	43%	135 [1.01]
m. OHPで Readers の新出車語 や熟語を復習すること	3	4	11	37	46%	158 [1.18]
n. 参考書 (「英文法の活用」) を自 習してくること	31	24	16	19	10%	-63 [-0.47]
o. 教科書の Exercise を答合わせ すること	7	8	14	27	43%	123 [0.92]
(3) 参考までに (来年の高1にも実施したほうがよからうと思うかどうか、自分のためになったかどうか)	-2 18	-1 13	0 27	+1 15	+2 26%	24 [0.18]
p. 入学式前にやったテキスト	19	5	28	19	29%	47 [0.35]
q. "An Invitation to Senior High School" 手引書	27	12	16	22	28%	34 [0.25]

ご協力ありがとうございました。あなたは…… (男・女) どちらかに○を

日常英会話・Aural-Oral Practice・"Key Points"・英語の歌などについては、肯定的な受け取り方をしているようである。

3人グループによるスピーチや手引き書については、われわれが期待したほど肯定的ではない。

参考書の自習に極めて否定的なのは、(A)のアンケートにも見られた通りである。

また、英文和訳・応用英作文に支持者が多いのには、少し考えさせられた。

IV 今後の課題

新しい指導要領で3年間の中学教育を経て来た生徒が来年度高1となる。こういう学習者の立場に立って、学習内容が無理なく効果的に消化され運用されてゆくように、われわれ教師は今まで以上に配慮し工夫する必要がある。

本校英語科では昨年度来、中・高のつながりをスム

ーズにするための継続研究を行なってきたが、アンケート結果にもみられるごとく、必ずしもよい結果が生まれているとは言いがたい。

とりわけ、生徒たちは自習・予習・余分な準備(スピーチなど)に負担を感じるようであり、この点を教師側がどう解決してゆくのかという難題につきあたってしまう。

学習が「苦」を伴うことは十分にわかっているが、どうにかしてそれを「楽」に変えたいと願うのはわれわれ教師の共通の意識であるし、また一方、授業時間内だけで効果を上げたいと思いつくも、つい生徒に予習・復習を過度に要求してしまいがちなことも否めない。これら2つの極端からどうやって妥協点を見出すのか、そして予習をそれほど必要としない中学段階での英語学習から生徒が自発的に学習してゆく方向にどう切り換えてゆくのか、どうやらこの点にわれわれの努力が今後とも一層向けられるべきであるらしい。